

長崎大学工学部社会環境デザイン工学コース

深谷橋ランプ橋上部工現場を見学

学生10人中6人が女性

長崎大学工学部社会環境デザイン工学コースの学生らによる現場見学会が4日、佐世保市の国道205号・深谷橋ランプ橋上部工工事現場で行われた。西

川貴文准教授と奥松俊博准教授に引率された10人の学生（4年生と大学院生）のうち6人が女性という、国交省が推進する建設業への女性進出を先駆けて実

現したような会となった。冒頭、九州地方整備局の寺岡岳彦佐世保国道維持出張所長が、発注者の立場から事業の全体概要を説明。その

上で、国交省として女性が進出しやすい環境づくりに取り組んでいることに触れ、土木工学科が前身の社会環境デザイン工学コースで多くの女性が学んでいることを歓迎した。

引き続き、同工事の現場代理人であるオリエンタル白石(株)の栗本英生氏が工事の進捗状況を、オリエンタル白石(株)福岡支店技術部の吉村徹氏がPC(プレ

ストレストコンクリート)橋について説明した上で現場へ。

現場は、10月末の工期に向けて最終段階。5

分割で工場製作した主桁を現地で接合・緊張・架設し、主桁間の

の間詰めコンクリートの打設も終了。現在は、橋側端部の地覆のコンクリートを打設作業中だ。参加者からは、工場製作時のコンクリートと、現場打ちコンクリートの配合の違いなど、専門的な質問も出ていた。

本紙の取材に応じてくれた4年生の中野優香さんは、来春ゼネコンに就職予定。これまで個人的にいくつかの現場を見学したという。オリエンタル白石

の福岡工場(大刀洗町)も見学し、その際製作中だった主桁が深谷橋ランプ橋のものだと分かる。「出会えた」と歓声を上げた。当日午前中に現場を見学した九州新幹線の福岡高架橋(施工・東亜・オリエンタル白石・大石JV)も含め、規模の大きさが土木の魅力とし、「事業の最初から最後まで携わり『私が作った』って言えるようになりたい」と、話してくれた。



架設された主桁の上で



▲栗本氏に説明を受ける参加者(中央が中野さん)